

第 143 号 (2011)

〒733-0032 広島市西区東観音 8-10

ワールド・フレンドシップ・センター

理事長：森下弘 館長：ロン&バーブ・サイニー

TEL (082) 503-3191

FAX (082) 503-3179

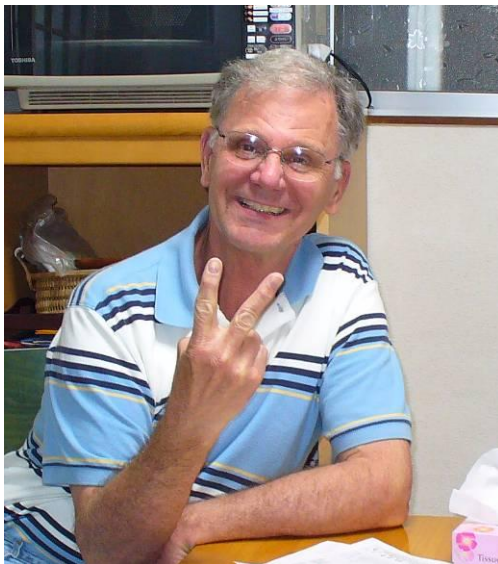
E-Mail: worldfriendshipcenter@gmail.com

URL: <http://www.wfchiroshima.net/>



お別れの時

ロン・サイニー



年をとるにつれ時の過ぎていく速さは加速するようで、WFC での私の時間もその例にもれません。行く手に何があり、何が待ち受けているのかさえ不確かな気持ちでバーブと私が広島駅におりたったのは、ほんの数週間前の事のように思えます。私たちは暖かく親しみのこもった笑顔と手助けを惜しまない優しさで迎えられ、歓迎され必要とされている事を実感させられました。

その気持ちは、アメリカへの帰国準備をしている今も変わっていません。この 2 年間はずっと日本が私たちのホームでした。親しい友人が沢山出来ました。

その友情は、私たちがどこにしようとか何をしようとか生涯続くことでしょう。日本の美しい場所を沢山見てきましたし、世界のどこにもない文化にも接しました。広島へ来るという選択をしたことを本当に喜んでいます。

いまここに感謝の気持ちを伝えたいと思います。すべてのボランティアの皆さん、生徒の皆さん、そしてスタッフの手助け、忍耐と寛容、その勤勉さに。そして何にもまして皆さんが見せて下さった友情と愛情に心から感謝します。帰国後新しい家に落ち着いたら、私たちに訪ねて来ていただけたらと思います。その時は、歓迎し必要とされていることを皆さんに感じて頂く番です。

皆さんが、喜びと幸せに満ちた日々を送られるよう祈ります。何時も皆さんの事を忘れる事はありません、私にとっては皆家族なのです。

平和と愛と祝福を

お別れの挨拶

バーブ・サイニー

ワールドフレンドシップセンターに来て早 2 年になります。それは私たちにここで過ごすよう与えられた時間でした。2 年なんて飛ぶように過ぎるだろうと言われていました。実際その通りで、2 年はとても短い時間でしたが、友達を作り国や文化を理解することはできました。



よく、「日本に来て一番楽しいことは何ですか？」と聞かれ、いつも「英会話のクラスが大好きです」と答えていました。しかし、この答えでは短すぎて私の本当の気持ちを表しきれいていません。英会話のクラスは確かに大好きです。大いに笑い、時には涙も流しました。互いを理解し合い、生徒さん達に日本の伝統、祭り、家族の生活など教えてもらいました。

しかし、センターにはクラスのほかにいろいろなあります。ゲストの受け入れ、各種活動、行事、ミーティング、それと旅行にも行きました。これらすべてをひっくるめて一つの経験になりました。この織り合わさった経験の中から 1 本の糸だけを抜き出すことはできません。織り込まれたものは、自分をおしみなく与えてくれる心やさしい人たちとの思い出です。ここに来るまでは地図上の一つの場所にすぎなかったのに、日本とそこに住む人が私の認識を変えたのです。

お別れを言う時がきました。今までも、別れは何度も経験してきましたが、決して簡単なことではありません。上手にさようならを言うことはここで出会ったみなさんに感謝の気持ちを伝えるということです。一人一人が「一緒に織り込まれた思い出」です。出発の準備をしながら伝えたい思いはあれこれ心に浮かぶのに、言葉にするとわずかししか言えません。「ありがとう。」「心から大切に思っています。」「会えなくなると寂しいです。」「平和が皆さんと共にありますように。」

「私達は、地球家族」

今田裕子

昨年の夏は、連日酷暑でした。その夏にインターンシップ、アメリカン PAX、NARPI、WFC45周年記念式典、広島&長崎平和祈念式典参加等々。ロン、バーブ、慣れない広島での2年間お疲れ様でした。加えて9月の末には、被爆者の方々とミズリー中央州立大学にて、被爆証言と、行事が、目白押しでした。WFCへのお二人の並々ならぬ御尽力には、頭が下がりました。

私達、水曜日午後の英会話クラスは、多くの時間をバーブにご指導頂きました。年齢も近い事もあり、彼女がアメリカ人の英語の先生であることなどを、すっかり忘れてしまう程、井戸端トークで、毎回盛り上がっていました。小倉さんと、月に2回、日曜日にお手伝いに伺っていますが、英会話教室と同様楽しい一時を過ごす事が出来ました。以前クラスメートから2年は、早いですよ！と、聞いておりましたが、あまりにも、早すぎて・・・出来る事なら一緒に米国に行きたい気持ちです。

3月にクラスメート全員とロン、バーブを囲んで楽しい宴の会を催しました。クラスメートからの、「メールを送っても宜しいでしょうか?・・・」という質問に、ロンが「勿論、待っています。広島で会った沢山の人は、私達の家族だと思っています!・・・」と答え、そばでバーブが頷いていました。

お二人の益々のご多幸を、心よりお祈り致します。

さようならバーバラさん、ロンさん

白男川邦昭

「ロンさんとバーバラさんがもうすぐ帰国されることになった」と言う言葉に、家内は「もう2年になるの?」と驚いていました。「もう2年になる!」と言うのが私の実感です。

私たちの「火曜日のクラス」の仲間は、ロンさんがWFCに来られたときは6人でしたが、1人は病気の為長期欠席、1人は九州へ転勤の為退会、もう1人は仕事の都合で常時は来れなくなり、常に出席している者は現在3人と少し寂しくなっています。

授業の内容は、その時のトピックスについてのフリートークからはじまり、ロンさんが用意したコピーの記事を読みながら、その記事について討論するパターンです。メンバーは英語の実力ではバラつきがあり、実を申せばこの文章を書いている私の実力はテールエンドに甘んじています。最初

のうちは、ロンさんの言葉について行けず、話題についての理解はおろか、自分から発言は全く出来ませんでした。何とか脱落せずについて行っており、ロンさんには感謝しています。

時々私たちのクラスには、世界各国からゲストを迎え、世界の色々な情報を提供して戴き、色々な話題について話し合いました。その中でも、前の館長のケントさんを迎えて、「膳」で一緒に夕食をとにした事は強く印象に残っています。又、先日ロンさんの娘さんのウェンディーさんが来日、ゲストとしてわれわれのクラスに参加し、自分の仕事について話されました。わずか数日の間に多くの被爆者に精力的にインタビューし、アメリカに多くの情報を持って帰られました。そのバイタリティーと熱心な仕事振りには感心しました。ファミリーがそろって、平和運動に努力されていることに敬服します。私自身は平日の昼間は仕事を持っており、折角用意された行事にはなかなか参加できませんでしたが、今後は出来るだけ参加したいと思っています。

あとわずかの期間ですが、ロンさんとバーバラさんには日本を楽しんでもらいたいと思っています。又、ロンさんがある日語ってくれたニューメキシコでの暮らしが実現できるよう祈っています。そのうちに、われわれのクラスもそろってアメリカを訪問出来るかもしれません。今後ともお二人が末永く元気で幸せな生活を送られますよう祈っています。

バーバラへの手紙

神田高明

バーバラ先生へ

私は火曜日夜のロンのクラスでしたから、いつもお目にかかっていたわけではありません。しかし時々ロンのクラスに出ていらしてお目にかかりました。その時の話の中で、本好きであられることを知りましたので私の持っているペーパーバックを貸すことにしました。私の愛読するネヴィル・シュートはハードカバーともども全作品をもっており、まずこの中からの作品「渚にて」「アリスのような町」など、それにあとはトルキエン、ディケンズ、ディック・フランシス、ポール・セラーなどなどを適当に選んで、クラスに出るときに2～3冊を持ってまいりました。読み終わられると、これは面白かったとか、これはあまり好きじゃないという短いコメントを伺いましたが、確かな鑑賞眼というものを感じました。私の20年余にわたって読んできた本の殆どを1年半余りで読まれたわけで、読むスピードの違いを思わせました。もうお貸しする本が残り少なくなって来ましたから、帰国されると聞いてちょっとだけほっとしました！とはいえお目にかかれなくなって、本の話が出来なくなるのは淋しいことです。バーバラ、あなたが読書の楽しみを知る方で私は嬉しかったです。お国に戻られたら、不自由なくお選びになれるでしょう。どうか、もっともっと読書をお楽しみになってください。お元気で、さようなら。

インターン紹介

アブダラ・ハバール

こんにちは、僕の名前はアブダラ・ハバールです。アメリカのイリノイ州シカゴから3月8日に広島に来ました。WFCと広島平和文化センターでインターン生として学ぶためです。どうして広島に来てどのように広島で学び終えるかということ話す前に、僕自身のことを少し話したいと思います。

僕はテネシー州のナッシュビルで生まれ7年間そこで過ごしました。

7歳になった頃にシカゴに引越し

それ以来シカゴに住んでいます。家族は大家族というべきでしょう。4人の弟妹と両親と僕の7人家族です。僕が最年長で年齢の幅は10歳から19歳までです。



僕はデュポール大学に通い専攻は国際関係学で、日本研究が副専攻でした。専攻の中でも特に核不拡散問題を集中的に学びました。僕は核兵器の人道上の観点からの考察にとっても関心がありました。学生時代に日本に2回来ました。日本に来る度に被爆者の方々の話を聞き、自分が知らなかったことがあることに気づきました。成長するまで僕は核爆弾が実際にどれほど酷いものであったかについて知りませんでした。多くのアメリカ人は、いまだに広島と長崎の人々が体験した惨状を理解していません。僕はこの二つの街を訪れ被爆者の方々の体験を聞いたからこそ核不拡散のメッセージに関心を抱くようになったのだと思います。それで僕はより一層研究を深め大学時代の論文の多くは核不拡散についてのものでした。

大学の最終学年のときに、スティーブン・リーパーさんに会いました。彼は大学で核不拡散のプレゼンテーションをする為にシカゴに来ていました。その時、僕は宮本ゆき先生の原爆についてのクラスを履修していました。彼女が僕にリーパーさんと彼女のプレゼンテーションを手伝ってくれないかと言ったのです。リーパーさんと被爆者の笹森恵子さんのプレゼンテーションを聞いたことは素晴らしい体験でした。こういう活動を手伝う方法を見つけたいという気持ちになったのはこの経験をしてからです。僕はデュポール大学を昨年6月に卒業しました。

卒業後仕事を探すために時間を費やしましたが、自分に適する仕事が無いように感じていました。それでスターバックスで働くことになり、それから様々な場所でボランティアをしたり、インターン生をしたりしました。僕は仕事を見つけられないのは、自分の知識を役立たせていないからだと考えました。そしてグーグルで平和や核不拡散を取り上げている組織を検索し、ワールドフレンドシップセンターを見つけました。僕はバーブにセンターのインターン生について問い合わせました。何も変わらないかもしれないが、試してみる価値はあると思ったのです。バーブにメールした数日後に、彼女から僕をインターン生として受け入れることにとっても関心を持っているとのメールを受け取りました。そのメールを読んでとても嬉しく、広島でインターン生として受け入れられること心が躍りました。いま広島にいて、自分が望んでいた分野で働く経験がついに得られた事に、ある種の達成感を感じています。ここで得られるすべての知識を吸収し、いつの日にか世界が少しでも良くなるように役立ちたいと思います。十分な恩返しはとてもできそうにありませんが、センターの皆さんがしてくださったように皆様のお役に立ちたいと思います。有難うございました。

ラリー&ジョアン・シムズご夫妻紹介



現在オレゴン州に在住のシムズご夫妻が今年5月、WFC に着任されます。ジョアンは36年間小学校で教鞭をとり、教育指導分野で博士号を取得されました。現在、リンフィールド大学の準教授を務めておられます。ラリーは35年間環境分野で働き、認定された専門技師であり、現在は排水浄化分野でコンサルタントを務めております。

ジョアンとラリーは結婚して46年間ずっと平和と正義の活動を支援してきました。自分達の二人の子供が3歳と5歳になった時、子供達の里親となりました。家出した子どもや路上生活している子供達をもっとよい生活を送れる手助けとなるようユースケアという組織をシアトルに設立しました。ユースケアは今春で36周年を迎えます。シムズ家は仕事で、または家族旅行で、アジア、アメリカ、豪州、欧州、カリブ海諸国、米国横断、カナダ、メキシコを旅しました。

結婚して以来、ワシントン大学やリンフィールド大学の数多くの日本人留学生のホームステイを受け入れてきました。もっとも最近では、ご夫妻はワールドフレンドシップセンターの PAX メンバーのホームステイを 2 回にわたって引き受けてくれました。その PAX メンバーたちは被爆体験を語り希望を分かち合いながら、米国を縦断しました。昨年 8 月、ご夫妻はワールドフレンドシップセンター PAX プログラムに参加されました。センターがボランティアの館長として彼らをお迎えすることは大きな喜びです。今までの経験と平和への熱情を見るとラリーとジョアンは申し分の無いセンターの館長です。

ラリーとジョアンを歓迎致します！！

新しい英語クラスの開設

バーブ・サイニー

English Arena が始まりました。このクラスは、小学校 5, 6 年を担当される教師の方々のお役に立ちたい、とのコンセプトで新設されました。それは、普段は広場の周辺にいる人達が、輪の中に入ってイベントにも参加し、自信を持って英語を話せる機会を提供するものです。

WFCに於いて、3 月 5 日(土)、6 日(日)の両日、広くどなたにも参加していただけるモデルクラスレッスンをを行い、この English Arena を御紹介できたことを喜んでいます。関心を持って来て下さった方達を迎え、沢山の質問を頂き、くつろいだ雰囲気のある教室セッティングの中で生徒の皆さんと楽しいレッスンが出来ました。WFCのボランティア多数が協力し、事前のチラシ、駐車場案内、ウェルカムシートなどの作成から当日のクラス補助まで、大勢で参加し、通訳など生徒さんとのコミュニケーションの円滑を図ったりしました。

第 1 回目の授業は 3 月 24 日(木)夜で、まず概要の説明をしてからレッスンに入り、手引きをしながらの会話、相互やりとり、発音練習などしました。Q&Aの時間も設けて、先生方のニーズや関心事項にも対応します。クラスのすべては、積極的に話そうとする力、聞く力をつけるよう構成されています。地域の先生方や若い学生さん達に、WFCが持てる貴重な知的、人的財産を駆使して貢献できる事は私たちの喜びであり、希望するところです。

ファンタイム・イン・イングリッシュ

池田美穂

今年の1月より「ファンタイム・イン・イングリッシュ」がスタートしました。毎月第4土曜日の午後1時からです。何年か前から「フレンドシップ・アフタヌーン」は休会となっていました。その変形復活版です。ジャンルにとらわれず、興味ある事を何でも楽しもう(ただし英語で)……というものです。毎回のテーマは、映画・音楽・ダンス・クラフト・料理・講演・等々…参加される皆さんが興味を持たれた事は何でもOKです。毎週の英会話クラスには参加できないという方やご近所の皆さん、どなたでも気軽にご参加いただけます。

1月と2月は館長ほかお薦めの映画鑑賞のあと、その感想等を英語で話し合うフリートークでした。参加者の方々の感想は、「とても楽しかった」「大変感動する映画だった」と皆さん好評のようでした。3月は東日本大震災の被害が甚大であり、急遽、「インターン生との集い」に変更し『揺らぐ原発の安全神話』をテーマに話し合いを持ちました。今後も、気負うことなく、居心地の良い時間を共有できるよう、様々な企画を参加者の皆さんと一緒に考え、実施していきたいと思っております。色々なご要望やご提案もどしどしお寄せ下さい。そして第4土曜日の午後は是非、ワールドフレンドシップセンターに足をお運び下さい。お待ちしております。

WFCが“Partners in Service 賞”を受賞

ダン・マクファーデン

“Partners in Service 賞”は2007年 Brethren Volunteer Service(BVS)によって創設され、奉仕活動を通じて神の愛を分かち合い、BVS に対して特に貢献した個人、プロジェクト、団体に贈られてきました。BVSは今年ワールドフレンドシップセンター(WFC)にこの賞を授与いたします。WFCは長い間、BVSと共に核戦争反対を訴え、世界の恒久平和を望んで活動してきました。WFCの館長を務めたボランティアにその機会を与えていただき BVSは日本人理事とアメリカ委員会の協力に感謝しております。授与式は2011年7月4日にミシガン州 Grand Rapidsにおいてプレザレン教会の年次会議中に開かれる BVS 昼食会議で行われます。今年は昼食会議スピーカーとして元館長のアリス&ラリー・ピートリをお迎えます。ほかに、前館長のロン&バーブ・サイニーを始めとして、多くの歴代の館長たちが出席されます。

バーバラ・レイノルズさんの碑 建立のお知らせと募金のお願い

バーバラの碑建立委員会

今回、長年の念願でした広島市特別名誉市民バーバラ・レイノルズさんの碑が建立される運びとなりました。時まさに多事多難の折ですが、バーバラさんの被災した者の立場に立った「私もまた被爆者です」と言った思いを想起しながら、ここにバーバラさんの被爆者、広島市民、そして世界平和への強い思いを留め、次世代への継承の拠り所といたしたく、バーバラさんを愛する方々や、市民の皆さんのお力添えをお願いする次第です。

2011年5月 NPO法人 ワールド・フレンドシップ・センター

設立の趣意

アメリカ人でありながら、ヒロシマのため世界平和のために働く事を天命と受け止め、生涯を捧げたバーバラ・レイノルズさん。彼女は、被爆者が悲惨・苦悩・憎しみを越えて平和を願う姿に深く共感し、強い意思で彼らを支え、核兵器廃絶を訴え続けました。ヨット・フェニックス号でハワイ沖の核実験場に抗議に乗り込み、被爆者と共に世界各地を訪問し、平和使節を送り出すなど、数々の功績により、1975年広島市特別名誉市民に選ばれました。また、1965年バーバラさんは平和活動の拠点として、広島にワールド・フレンドシップ・センターを設立し、人と人とが理解を深める事こそが平和を創る基本であるという理念のもと、今もなお、その活動と実践が続けられています。核兵器廃絶にかけた彼女の働きが、未来に生きる若い世代に継承されることを願ってこの碑を建立します。

1. 建立の日時 2011年6月
2. 建立の場所 平和公園東南詰 ノーマン・カズンズ氏記念碑、マルセル・ジュノー博士記念碑の並び
3. 様式(添付図参照)
4. 経費 300万円
募金
一口 個人 1,000円(何口でも可)
団体等 10,000円

問い合わせ先:

〒733-0032 広島市西区東観音町 8-10 ワールドフレンドシップセンター

Tel: 082-503-3191

Fax: 082-503-3179

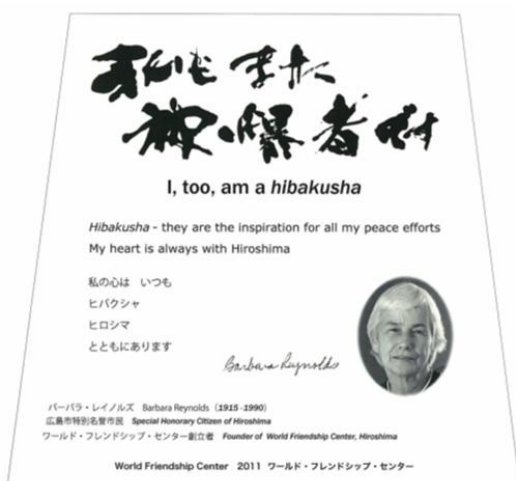
Eメール: wfchiroshima@nifty.com

ホームページ: wfchiroshima.net

振込み先:

ゆうちょ銀行口座記号番号 01360-2-99318

加入者名 特非)ワールドフレンドシップセンター



記念碑 配置イメージ/バース